

聖霊降臨後第八主日

特定十一

神よ、あなたは天地万物をみ節理のうちに治めておられます。どうか、わたしたちを害する肉の行いを聖霊によつて除き、み心に従つて良い行いの実を結ぶことができるようにしてください。主イエス・キリストによつてお願いいたします。

アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書はイザヤ書第五十七章十四節から」

盛り上げよ、土を盛り上げて道を備えよ。
わたしの民の道からつまずきとなる物を除け。

- 15 高く、あがめられて、永遠にいまし
その名を聖と唱えられる方がこう言われる。
わたしは、高く、聖なる所に住み
打ち砕かれて、へりくだる霊の人と共にあり
へりくだる霊の人に命を得させ
打ち砕かれた心の人に命を得させる。
- 16 わたしは、とこしえに責めるものではない。
永遠に怒りを燃やすものでもない。
霊がわたしの前で弱り果てることのないように
わたしの造つた命ある者が。
- 17 貪欲な彼の罪をわたしは怒り
彼を打ち、怒つて姿を隠した。
彼は背き続け、心のままに歩んだ。
- 18 わたしは彼の道を見た。
わたしは彼をいやし、休ませ
慰めをもつて彼を回復させよう。
民のうちの嘆く人々のために
- 19 わたしは唇の裏りを創造し、与えよう。
平和、平和、遠くにいる者にも近くに
わたしは彼をいやし、と主は言われる。
- 20 神に逆らう者は巻き上がる海のように
静めることはできない。
その水は泥や土を巻き上げる。
- 21 神に逆らう者に平和はないと
わたしの神は言われる。

朗読者 「旧約聖書を終ります」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

第二編 二三〜三二節

23 主を畏れる者は神をたたえ、ヤコブの子孫はみな主をほ

めよ＝ イスラエルの子孫はみな神を畏れよ

24 神は悩む人の苦しみを軽んぜず、いとわれず＝ 顔を背

けることなく、その叫びを聞き入れられた

25 神の恵みによって、民の集いで賛美を献げ＝ 神を畏れ

る人びとの前で、わたしは誓いを果たす

26 貧しい人は糧に恵まれ、神を求め人は主をたたえる＝

いつまでもあなたがたの心は生きるように

27 遠く地の果てまで、すべての者が主に立ち帰り＝ 諸国

の民は神の前にひざをかがめる

28 わたしの国は主のもの＝ 神は諸国を治められる

29 地の中に眠っている者もみな主をあがめ＝ 塵に帰る者

も皆み前にひれ伏す

30 わたしは神のために生き、子孫は神に仕える＝ 彼らは

主のことを次の世代に語り継ぎ

31 後から生まれてくる民に＝ 神のみ業、その救いを告げ知らせる

使徒書

朗読者 「使徒書はエフェソの信徒への手紙第二章十一節か

ら」

11 だから、心に留めておきなさい。あなたがたは以前には肉によれば異邦人であり、いわゆる手による割礼を身に受けて

いる人々からは、割礼のない者と呼ばれていました。12 ま

た、そのころは、キリストとかかわりなく、イスラエルの民

に属さず、約束を含む契約と関係なく、この世の中で希望を持

たず、神を知らずに生きていました。13 しかしあなたがた

は、以前は遠く離れていたが、今や、キリスト・イエスにお

いて、キリストの血によって近い者となりました。14 実

に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一

つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、

15 規則と戒律なくめの律法を廃棄されました。こうしてキ

リストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上

げて平和を実現し、16 十字架を通して、両者を一つの体

として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。17

キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、近くに

いる人々にも、平和の福音を告げ知ら

せられました。18 それで、このキリストによってわたしたち両方の者が一つの霊に結ばれて、御父に近づくことができるので、19 従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり、20 使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・イエス御自身であり、21 キリストにおいて、この建物全体は組み合わされて成長し、主における聖なる神殿となります。22 キリストにおいて、あなたがたも共に建てられ、霊の働きによって神の住まいとなるのです。

朗読者 「使徒書を終わります。」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖マルコによる福音書第六章三十節以下に記された主イエス・キリストの福音。主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

30 さて、使徒たちはイエスのところに集まって来て、自分たちが行ったことや教えたことを残らず報告した。31 イエスは、「さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行つて、しばらく休むがよい」と言われた。出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。32 そこで、一同は舟に乗つて、自分たちだけで人里離れた所へ行つた。33 ところが、多くの人々は彼らが出かけて行くのを見て、それと気づき、すべての町からそこへ一斉に駆けつけ、彼らより先に着いた。34 イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て、飼い主のいない羊のような有様を深く憐れみ、いろいろと教え始められた。35 そのうち、時もだいたいぶたつたので、弟子たちがイエスのそばに来て言った。「ここは人里離れた所で、時間もだいたいたちました。36 人々を解散させてください。そうすれば、自分で周りの里や村へ、何か食べる物を買に行くでしょう。」37 これに対してイエスは、「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい」とお答えになった。弟子たちは、「わたしたちが二百デナリオンものパンを買って来て、みんなに食べさせるのですか」と言った。38 イエスは言われた。「パンは幾つあるのか。見て来なさい。」弟子たちは確かめて来て、言った。「五つあります。それに魚が二匹です。」39 そこで、イエスは弟子たちに、皆を組に分けて、青草の上に座らせるようにお命じになった。40 人々は、百人、五十人ずつまとまって腰を下ろした。41 イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて、弟子たちに渡しては配らせ、二匹の魚も皆に分配された。42 すべ

ての人が食べて満腹した。43 そして、パンの屑と魚の残りを集めると、十二の籠にいっぱいになった。44 パンを食べた人は男が五千人であった。

司祭 「主に感謝」
会衆 「主に感謝します」